



学校だより

横浜市立洋光台第一小学校

令和3年1月7日発行



『襷をつなぐ』

校長 中村 智

令和3年、2021年を迎えました。

1月2日・3日は、お正月恒例の東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）が行われました。両日、選手の走りをテレビで視聴された方も多いのではないのでしょうか。

10年以上前の1月3日、この箱根駅伝の復路を走る選手を沿道で応援しました。場所は東神奈川駅の近くでした。戸塚中継所で襷を受け取り、横浜駅前を過ぎ、次の鶴見中継所までは、まだ6、7kmぐらいあると思われる地点です。

この時、こんな場面を目にしました。ある大学の選手が、私がいた場所の数十メートル手前で立ち止まり、嘔吐したようでした。そして走り出すも、また私がいたすぐ近くで再度立ち止まりました。監督が伴走の車から降りて選手に話しかけていましたが、すぐ選手から離れ、「大丈夫だ」と車に同乗していた人に言いながら、また車に乗り込みました。監督が選手を介抱したりするために選手の身体に触れた時点で棄権となるルールで、この時は監督が選手に触れることはありませんでした。その後、その選手が走り去る後ろ姿を目で追っていると、また数十メートル過ぎたところで立ち止まり、そしてまた走り続けました。

私は襷をつなげるための選手の使命感をまず感じました。個人で走る20kmロードレースであれば、嘔吐するほどの体調となれば走るのをやめていたのではないのでしょうか。そして、監督の「判断」の難しさを強く感じざるをえませんでした。途中嘔吐しながら走っている選手を止めるべきか走り続けさせるべきか。選手の体調や走力、性格、残りの距離、気象条件、チームの記録等、あらゆることを考えながら、選手の安全面から「判断」しなければなりません。

学校教育現場でも、ご家庭や地域での教育の現場でも「判断」を求められることが多々あります。時間の猶予がなく瞬時に「判断」しなければならないこともあるでしょう。ではなにをもって「判断」するのでしょうか。まず、上に記した駅伝選手の場合と同じように、子どものことをよく知らなければなりません。そして、子どもを取り巻く環境についても知っておく必要があります。その上で、経験、周りの助言、規則やルール、書物やマスコミ等からの情報等をもとに、学校、家庭、地域で『子どもの安全』『子どもの成長』を考え、「判断」することになるでしょう。

2021年、この三者で、子どものことをよく知りあい、共有し、『子どものために』のキーワードで「判断」していきたいと思えます。コロナ禍で、この三者の連携が例年以上に求められます。

洋一小の子どもたちのために、学校、家庭、地域の三者で襷をつないでいきたいと思えます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。